

Diversity & Inclusionをめぐる 最近の話題について

ジェンダーの課題を中心に

一般社団法人 日本経済団体連合会 (経団連)
ソーシャル・コミュニケーション本部長
正木 義久



経団連は、

- 経済界が直面する内外の重要課題について、経済界の公正な意見を取りまとめ、着実・迅速な実現を働きかけています。
- 国内・海外の政治、行政、労働組合、市民など幅広い関係者との対話を進めています。
- 会員企業に対し「企業行動憲章」などの遵守を働きかけ、企業への信頼の確立に努めています。



本日のテーマ

ジェンダーダイバーシティを進めるために

1. 岸田政権が取り組む「男女の賃金格差問題」ってなんだ？
2. D&Iを進める企業や経団連の取り組み
3. 「アンコンシャス・バイアス」を断ち切るための制度改革

**男女の賃金格差は、
理由がわかっているのに
なぜ簡単に
ひっくり返らないのか**

アンコンシャス・バイアス (unconscious bias)

=人が無意識に持っている、偏見や
思い込み。経験則によって、気づ
かないうちに身につけたもので、
本人が意識しないところで、行動
や意思決定に影響を与える。無意
識の偏見。UCB (unconscious bias)。

(出典：デジタル大辞泉・小学館)

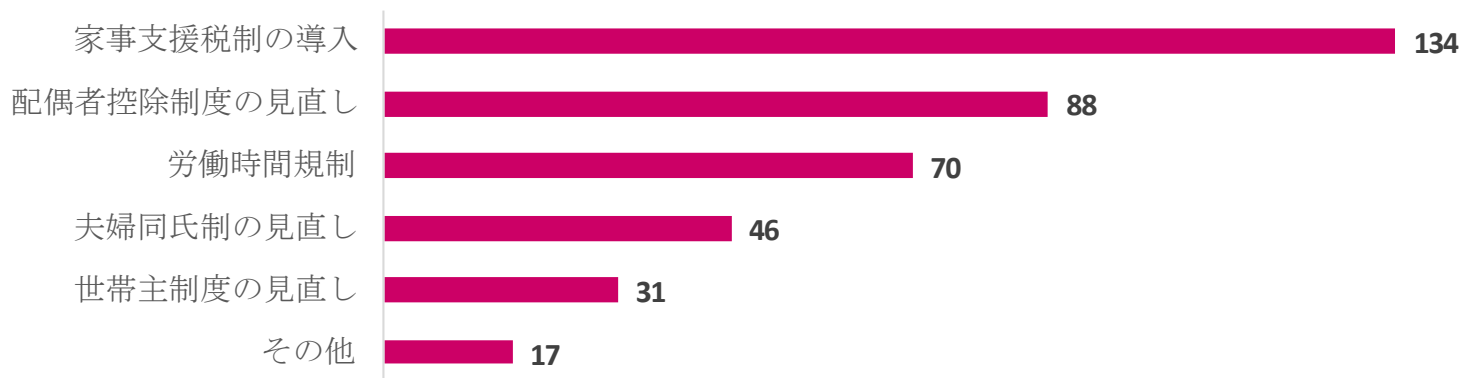
女性活躍を推進する上で見直しや導入が必要だと思う社会制度

(経団連「ポストコロナ時代を見据えたダイバーシティ&インクルージョン推進」に関するアンケート結果/2020年10月29日)

<女性活躍を推進する上で見直しや導入が必要だと思う社会制度>

- ✓ **家事支援税制（家事・育児代行サービス料の一部を税額控除する制度）の導入が最多**
「家事の外注について経済的なメリットが生じるような制度を設けることにより、責任感がないなどの非合理的な世間の雰囲気を更新することにつながると考えられるため」
- ✓ いわゆる「103万円の壁」等の原因となる**配偶者控除制度の見直しを求める声も多い**
「税金等の支払いを避けるために、就業に制限をかける女性が増え、就業機会やキャリアアップを阻む要因になると考えたため」

女性活躍を推進する上で見直しや導入が必要だと思う社会制度（複数回答可）



* 「その他」では、男性の育児参画を促進する制度が多くあげられた。そのほか、保育所の充実、クオータ制等も。

まとめ

- 男女の賃金格差を解消するには、様々な構造的要因をひっくり返すことが必要。
- 企業・経団連は、ダイバーシティ & インクルージョンが、イノベーションを生むことに着目して、これを推進している。結果として格差は縮小の方向。
- 格差の構造要因の「アンコンシャス・バイアス」の払拭には、意識と意識を増進する制度を改革していくことが必要。

女性に対する暴力をなくすキャンペーンに参加して、パープルカラーにライトアップされた経団連会館

